

平成29年度 校内研究計画

大河原町立大河原中学校

3年計画1年次

1 研究主題

『 確かな学力を身に付け、意欲的に学ぶ生徒の育成 』
～互いに認め合う学習集団づくりを通して～

2 主題設定の理由

(1) 今日の課題から

中学校において平成33年度から全面実施される次期学習指導要領では、一方的に知識を得るだけでなく、「主体的・対話的で深い学び」、いわゆるアクティブ・ラーニングの視点からの授業改善をさらに充実させ、子供たちがこれからの時代に求められる資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けることを目指している。この「育成すべき資質・能力」としては、中央教育審議会教育課程部会「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ」において、

- ① 何を理解しているか、何ができるか（生きて働く「知識・技能」の習得）
- ② 理解していること・できることをどう使うか（未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成）
- ③ どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養）

の3つの柱が示された。この3つの柱は、学校教育における全ての教科や諸活動に関する資質・能力に共通するものであると考えられる。本校の生徒においては、「知識・技能」は身に付けているが、「思考力・判断力・表現力等」及び「学びに向かう力・人間性等」については課題があると考ええる。

(2) 学校教育目標の具現化から

本校では校訓として「自覚・立志・健康」を掲げ、教育目標の一つに「夢と希望の実現に向け、ひたむきに学ぶ生徒」を挙げている。目標をもち、自ら課題を見だし、実現に向けて学び続けることのできる生徒の育成を目指している。

学び続ける生徒の育成に不可欠なのは「わかる・できる」授業の創造、身に付けた知識・技能を用いて仲間たちと「高め合う」ことである。教科指導力の向上を図るとともに、生徒たちが安心して意見を述べ、学び合うことができる学習集団をつくることで、教育目標を具現化することができるのではないかと考えた。

(3) 生徒の実態から（平成28年度の調査結果から）

本校は、3つの小学校から生徒が進学してきており、生徒数615名、学級数23学級の大規模校である。生徒は、明るく、部活動や生徒会活動に意欲的に取り組んでいる。また、復興支援委員会を立ち上げて継続的に支援活動を行うなど、ボランティア活動にも積極的である。学習に関しては、5月に行った学習意識調査の結果からは、「授業内容が分かる生徒」は5教科それぞれ

70～80%程度、「平日の家庭学習の時間が2時間を超える生徒」の割合は40%程度である。

平成28年度の全国学力・学習状況調査の正答率は、一昨年度、昨年度から向上が見られ、国語は全国平均とほぼ同等、数学Bにおいては全国平均との差が3ポイント程度に収まっている。国語に関して、「書くこと」については全国平均を上回っており、生徒質問紙からは感想文や説明文に対する抵抗感が少ないことがわかっている。数学については「関数」の領域、特に反比例や比例式に課題が見られた。一方で、生徒質問紙からは数学の有用性について肯定的にとらえていることがわかった。

平成28年度の宮城県学力・学習状況調査では、国語は前年度よりも向上し、県平均を3.4ポイント上回った。数学は図形領域に課題があり、正答率は前年度から減少し、県平均を下回る結果となった。例年課題であった英語については「聞くこと」「言語や文化についての理解」に課題があるものの、前年度よりも向上が見られた。全体的に、50～70%正解の割合が少なくなっており、中間層の引き上げが必要であることがわかった。

全国及び県の生徒質問紙の結果からは、生徒の規範意識や自己肯定感、自己有用感にも課題があることが挙げられる。学力の向上と生活全般における規範意識や自己肯定感、自己有用感の高揚は密接に結びついていることから、学習環境の整備とともに、各学級、学年等の集団として、生徒の学習意欲を高める指導・支援が大切になってくると考える。

(4) 昨年度の研究の実践から

本校では宮城県学力向上指定を受け、研究主題「自ら学び、確かな学力を身に付ける生徒の育成」副題「家庭学習とのサイクル形成を図る授業づくりを通して」として3年間研究を行ってきた。3年間の様々な取組を通して、

- ・生徒の学習時間の向上（平日2時間以上の生徒が64.3%）
- ・生徒個人の学び方、学習サイクルの定着（宿題の有用性82.7%）
- ・知識、理解力の向上（全国学力・学習状況調査、国語A・B、数学A・Bで前年度より向上）

等の成果を得た。しかし、その一方で、

- ・受動的な学びになっている（与えられた課題には取り組む）
- ・自らを高めようとする一歩が踏み出せない（自己有用感、自己肯定感に課題）
- ・学び合う学習集団になっていない（学習意欲の低下、人間関係の悩み）

等の課題が見られるなど、個としての学習習慣には向上が見られるものの、課題に対して集団で取り組み、練り合い、解決に向かう力は十分とはいえない。また、集団で一つのものを作り上げることに對しての意欲も高くはない。そこで、集団づくりを通して、個で培った力を持ち寄ることで、学習に対する意欲面、活用面でさらに向上すると考えた。

このような課題を踏まえ、互いに認め合う集団づくりを図ることで、確かな学力を身に付け、自らを高めようとする意欲をもった生徒の育成を目指していきたい。

3 研究目標

生徒が互いに認め合い、安心して考えを言い合える学習集団づくりを図ることで、自らを高めようとする意欲をもった生徒の育成を目指す。

4 研究主題のとらえ方

(1) 「確かな学力」について

「確かな学力」とは、「基礎的・基本的な知識・技能の習得」と「学ぶ意欲の向上」と、押さえている。

文部科学省では「確かな学力」について、知識や技能はもちろんのこと、これに加えて、学ぶ意欲や自分で課題を見付け、自ら学び、主体的に判断し、行動し、よりよく問題解決する資質や能力等まで含めたもの、としている。本校の生徒の課題としては、基礎的・基本的な知識・技能の習得、学習意欲の向上や学習習慣の確立が挙げられることから、基礎的・基本的な知識・技能の習得と学ぶ意欲の向上を重視して取り組んでいく。

(2) 「意欲的に学ぶ」について

「自ら学び」とは、「目標をもち意欲的に学習に取り組む」、「自ら課題を見いだして取り組む」、「夢の実現に向けて計画を立てて学び続ける」と、とらえている。

本校の教育目標の一つに「夢と希望の実現に向け、ひたむきに学ぶ生徒」がある。しかし、全国及び宮城県学力・学習状況調査の結果では、「将来の夢や目標をもっている」、「計画を立てて勉強をしている」、「自分には良いところがあると思う」についてはあまり肯定的ではないなど、自ら計画を立てて努力する姿勢や、自己肯定感は低い傾向がある。

(3) 「互いに認め合う」について

他者の意見を尊重しながら、自分の考えと比較したり、関係づけたり、または自分の意見を再構築するなどして深め合うことと、とらえている。

生徒が自分の考えを述べるためには、周囲の生徒が肯定的で他者の考えを受け入れる雰囲気醸成が求められる。それにより、自己肯定感や自己有用感が芽生え、誤答や失敗を恐れず、学習課題の追究に取り組んでいけるものとする。

5 研究仮説

以下のような視点をもって授業改善、学習集団づくりを行い、生徒が互いに認め合い安心して考えを言い合える学習集団を形成することができれば、意欲的に学ぶ生徒を育成することができるであろう。

視点1 「意欲を高める」集団づくりの工夫

- ・授業で、学級活動で、学級・学年それぞれで集団づくりに取り組む
- ・教科部会での学習習慣、学習環境の整備、共通化を図る

視点2 「意見を交わし合う」授業形態の工夫

- ・学習課題に合わせ、考えを深めさせる授業形態を工夫する
- ・ペアやグループ、学級全体で安心して自分の考えを言える授業形態を工夫する

視点3 「学んだことを深める」授業と家庭学習のサイクルの工夫

- ・学んだことの定着、深化させる、復習型の学習サイクルを工夫する
- ・授業への意欲を高めさせる、予習型の学習サイクルを工夫する

6 研究の内容と方法

- (1) 生徒が互いに信頼できる学習集団づくりの取組を計画的に行う。
- (2) 生徒が互いに意見や考えを言いやすい授業形態を探る。
- (3) 授業と家庭学習とのサイクル形成を適切に図るため、家庭学習の内容を明確化して指示をする。その際に、各教科や単元の特性に応じた「予習型宿題サイクル」、「復習型宿題サイクル」を意識して内容を吟味する。(5つの提言⑤)
- (4) 教科指導力の向上と教師間での指導の共有化を、校内研究授業を通して行う。
 - ① 7月の指導主事訪問においては、教科部会で計画、検討し、模擬授業、先行授業等を行い、教科部会としての授業提供を行う。
 - ② 年間を通して全教員が校内研究授業を行う。教科の所属ごとに参観及び事前、事後検討会を行って指導方法の共有化し、実践を通して授業と家庭学習とのサイクル形成の強化を図る。
- (5) 全国学力・学習状況調査、標準学力調査（CRT）や学習意識調査等を実施して生徒の実態を把握し、授業改善や教材研究の手掛かりとする。
- (6) 帰りの会で、翌日の予定と宿題を確認する時間を設け、家庭学習の時間の確保と、下校後の時間の過ごし方を考えさせる。

7 本年度の研究の計画

(1) 年次計画

年次	研究の重点	研究内容
1年次 (H29年度)	<ul style="list-style-type: none"> ・学習集団づくりの取組、実践 ・学習習慣・学習環境の確立 ・教員の指導力の向上のための研究授業 ・授業と家庭学習のサイクル確認 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究全体計画の立案 ・生徒の学習意識調査、各種学力調査と結果分析 ・校内研究授業の実施 ・文献調査、先進校視察 ・評価と反省、次年度の計画立案
2年次 (H30年度)	<ul style="list-style-type: none"> ・互いに認め合い学び合う学習集団の形成 	<ul style="list-style-type: none"> ・1年次の研究の修正・課題克服への焦点化 ・標準学力調査（CRT）、学習意識調査全国、及び県学力・学習状況調査と結果分析 ・校内研究授業の実施 ・評価と反省、次年度の計画立案
3年次 (H31年度)	<ul style="list-style-type: none"> ・互いに認め合い学び合う学習集団の確立 	<ul style="list-style-type: none"> ・2年次の研究の修正・課題克服への焦点化と成果への裏付け ・生徒の学習意識調査、各種学力調査による検証 ・研究の成果と課題の検証、研究のまとめ

(2) 学力向上対策

①学習集団の形成

- ・ Q-Uテストの実施（7月）、分析
- ・ 構成的グループエンカウンター、グループワークトレーニング、プロジェクトアドベンチャー等の手法を計画的に取り入れた学級活動
- ・ 各教科の特性に合わせた、ペア、小グループ等の学習活動

②学力向上

- ・ 東京書籍 Web ライブラリー（問題集の活用） 国語・数学・英語
- ・ みやぎ問題単元ライブラリー（問題集の活用） 数学
- ・ 朝学習テスト（月…国語、水…英語、木…数学（数学オリンピック） 15分間）
- ・ N I E の実践（火の朝学習の時間 15分間）
- ・ 暗唱読本の活用（金の朝学習の時間 15分間）
- ・ 週間課題，朝学習テストの実施
 - ※週間課題，朝学習テスト，放課後学習会については，下記のようなサイクルで行い，継続して基礎・基本の習得を図る。
 - ※週間課題では，全国学力・学習状況調査過去問題，宮城県学力・学習状況調査の過去問題や類似問題も出題し，思考力・表現力の向上を図る。
- ・ 試験前放課後学習会の実施
- ・ 生徒会（生活委員会）による携帯・スマホ9時ルール（おおがわらルール），家庭学習時間の調査，呼び掛けなど，生徒の側からの学習習慣・学習環境を徹底する活動の実施

③指導力向上

- ・ 年間を通して，全員が校内研究授業を行う。
- ・ 授業での「振り返り」の時間を重視した授業展開を検討，実践を積み重ねる。
- ・ iPad, Windows タブレット PC, 液晶プロジェクタ等，I C T 機器を授業で積極的に活用する。

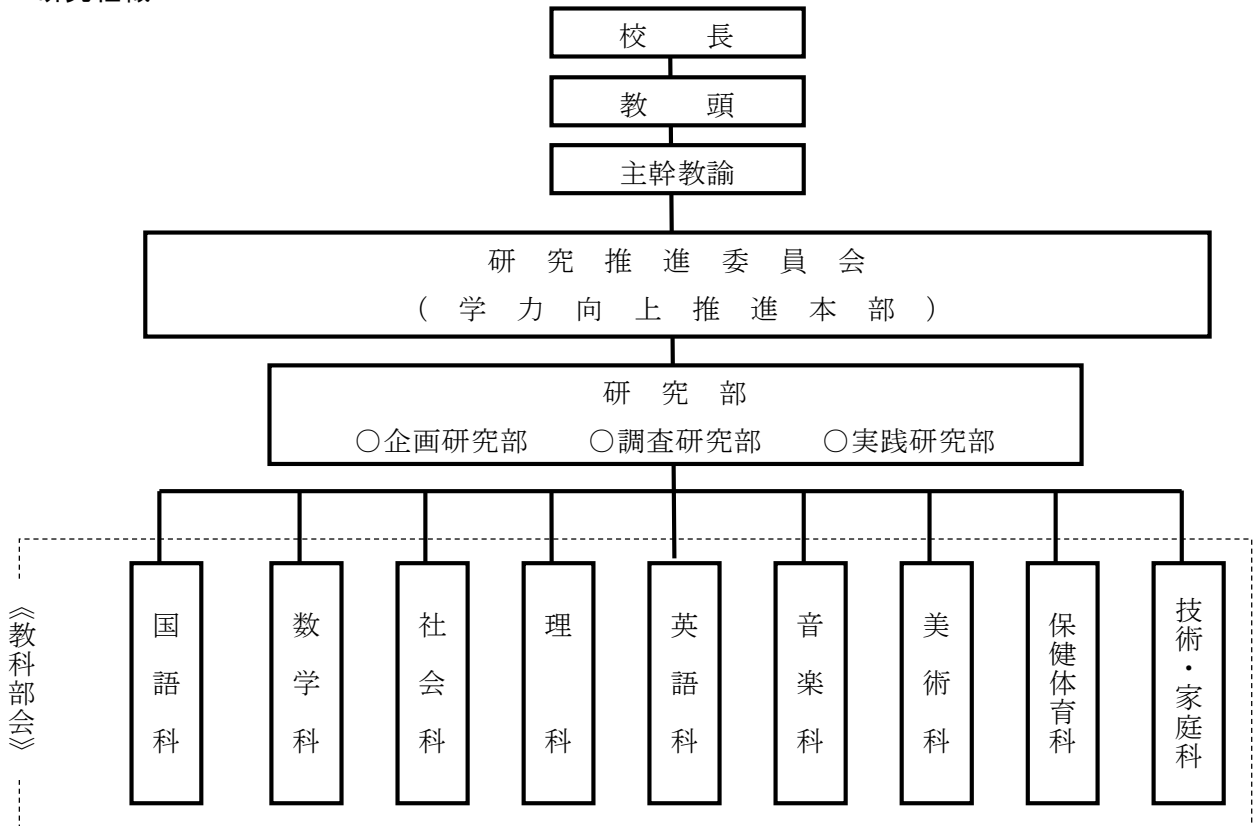
④研修会

- ・ 持続発展教育（E S D）の研修や生徒指導研修を通して，指導力向上，生徒理解に努める。

(3) 研究の評価

- ① 4月の標準学力調査（C R T）と12月の標準学力調査（C R T）の結果の推移や全国比との達成度等から，「学力向上」（目標値の達成）を図ることができたか検証する。領域別，観点別の検証に加え，経年変化についても検証する。
- ② 5月と11月の学習意識調査の結果を通して，学習に対する意識の改善（学習への意欲，学習習慣・授業の理解についての目標値に対する改善），情意面での変容（学びやすい学習集団，学習に対する姿勢の変容）が見られたか検証する。

8 研究組織



《研究部組織》

企画研究部	調査研究部	実践研究部
①各種調査結果分析をもとにした方策の検討 ②指導主事訪問に向けた計画、準備 ③家庭学習の手引き作成 ④校内、校外に向けた広報活動	①全国学力・学習状況調査結果分析 ②標準学力調査（CRT）結果分析 ③学習意識調査の作成 ④学習意識調査結果分析 ⑤分析結果のまとめ作成	①週間課題，朝学習テストの運営 ②学習意欲を高めるような校内学習環境の整備 ③校内研究授業の事前，事後検討会の設定，準備 ④研究授業のまとめの蓄積

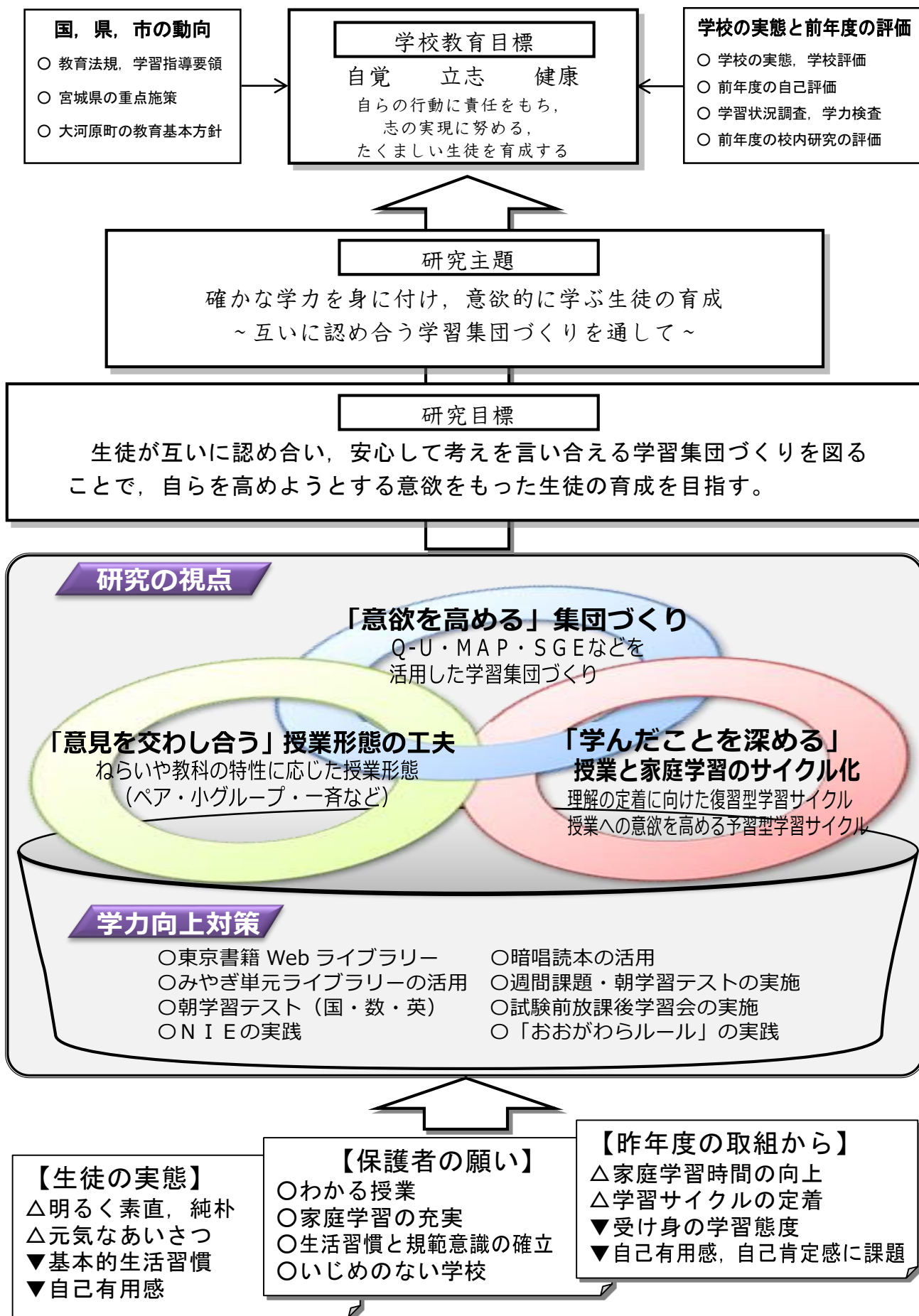
《教科部会》

- ・生徒が互いに認め合い，安心して意見を言える授業づくりを行う。
- ・学習意欲の喚起や理解の深化を図る学習形態（ペア，小グループ等）を模索する。
- ・1年間を見通した研究授業の計画（授業者，単元等）を行う。
- ・研究授業に向けた，事前・事後検討会，先行授業等の実施。
- ・宿題，小テスト，自己評価などの授業の流れを検討，統一化を図る。

《学年部会》

- ・生徒が安心して学校生活，授業に取り組むことができる集団づくりを行う。
- ・Q-Uテストの実施・分析により学級集団の実態を把握する。
- ・構成的グループエンカウンター，グループワークトレーニング，プロジェクトアドベンチャー等の手法を計画的に取り入れた学級活動を実践する。

9 研究の全体構想図



10 本年度の研究の計画

月	会議等	内 容
4	研究部会（全体）	・校内研究の方向性の確認
	教科部会	・教科経営，研究目標，年間指導計画の確認
	研究推進委員会・職員会議	・校内研究の進め方について，全体で確認
	校内研修	・配慮を要する生徒の支援の在り方について共通理解
	標準学力調査（CRT） 全国学力・学習状況調査	
5	教科部会	・各教科での宿題の内容，進め方の確認，実践の開始，指導主事訪問に向けた授業の検討
	実践研究部会	・指導案の書き方，指導主事訪問に向けたスケジュールの確認
	企画研究部会・職員会議	・学習意識調査の作成
	調査研究部会	・学習意識調査の実施（全学級）及び集計
	学習意識調査（第1回）	・5月の最終週に学年ごとに実施
6	調査研究部会	・学習意識調査，標準学力調査（CRT）の結果分析，まとめの作成 →学習意識調査，標準学力調査（CRT）の結果を校内で（職員会議・教科部会等）で共有。
	企画研究部	・期末試験強化週間の設定 →試験前で部活動中止期間の2日間，帰りの会後に各学級で実施。
	実践研究部会・教科部会	・指導主事訪問に向けた授業，指導案の検討，準備 ・先行授業の実施と検討会の実施 →教科部会を3回設定し，授業の概要の検討，指導過程の検討，指導案の検討を行う。 ・校内授業研究会，事後検討会
7	指導主事訪問 実践研究部会・教科部会 研究部会 学年部会（学級） 教科部会	・指導主事訪問 ・指導主事訪問の準備，反省と改善点の検討 ・1学期の実践を受けての研究の方向性の修正，確認 ・Q-Uテストの実施 ・校内授業研究会，事後検討会
8	教科部会 調査研究部会 校内研修	・2学期の実践に向けた計画，準備 ・全国，及び，県学力・学習状況調査の結果分析，まとめ ・ICT活用(MIYAGI Style)の活用の仕方
9	教科部会	・校内授業研究会，事後検討会
10	教科部会 学年部会（学級）	・校内授業研究会，事後検討会 ・Q-Uテストの分析と対策の検討

月	会議等	内 容
1 1	企画研究部会 調査研究部会 学習意識調査（第2回） 教科部会	<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上強化月間の企画，実践 ・学習意識調査の作成 ・学習に関する実態調査（全学級） ・校内授業研究会，事後検討会
1 2	調査研究部会 教科部会 企画研究部会 標準学力調査（CRT）	<ul style="list-style-type: none"> ・学習意識調査の結果分析，5月との比較，まとめの作成 ・3学期の実践に向けた計画，準備 ・学力向上強化月間の実践，指導主事訪問に向けたスケジュールの確認
1	調査研究部会・教科部会	<ul style="list-style-type: none"> ・標準学力調査の分析，経年比較，まとめの作成
2	教科部会 研究部会（全体）	<ul style="list-style-type: none"> ・研究のまとめ作成 ・研究のまとめ作成
3	研究部会（全体） 研究推進委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度の研究計画の立案と作成 ・今年度の研究の成果と課題